

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

二期期もお疲れ様！
パワーを貯めて
また来年！

急に寒さが増してきました。インフルエンザ拡大によつての学年閉鎖もありましたが、無事に終業式を迎えることができ、ホッとしています。

以下は式辞の内容です。対話を通して、みんなで成長していこうということを呼びかけました。

今年も一年で最も長い二学期が終わろうとしています。今年の4月には、多くの先生方が転任され、新たな顔ぶれでのスタートを切りました。また、成績が二期制に変更され文化学習発表会が平日に開催されるなど、青嶺中学校は新しい体制での歩みを進めました。また、スポーツ面では、パリオリンピック、国スポ全障スポもあり、バレーボール部の優勝や藤森君の全国大会出場など、皆さんの

仲間たちが多くの活躍を見せ、注目を集めました。二大会連続オリンピック出場の本選手の手来校も記憶に新しいところです。

そして黒川小学校、波多津小学校と三校合同で実施した初の企画、「はたらく人プロジェクト」では、多くの企業や団体で活躍されている方々から、直接お話を伺うという貴重な体験もできました。それらの取組を通して、共通して学んだことは、心に響く言葉には話し手の強い意志や熱い思いが込められているということです。そして、それを素直に受け止める心の準備ができていることも大変重要です。真つすぐに相手に向き合い、素直に思いを受け止め、自分自身の成長の糧にする、そうした心構えを皆さんはしっかりと持っていると感じています。素直に受け止め、それを自分の成長に活かしていく努力を、今後もしっかりと続けてください。そのために、本校では教育活動全体で、対話を大切にしています。様々な人と対話し、お互いを理解し、違いを受け入れること

で、自分をさらに成長させてください。他者との対話を通じてこそ、自分自身が成長できるのです。また他者との関わり無くしては自分の成長は望めないのです。年齢や性別、立場を問わず積極的にそして粘り強く対話をしましょう。

先日の子生徒会長選挙でも、この学校に関わる全ての人たちが行うべき重要な対話のテーマが話題に上がりました。どのような形になるかはまだ分かりませんが、生徒会からの積極的な提案を楽しみにしています。お互いがどのような理由でその意見を持っているのかに関心を持って、深く探りましょう。そして、互いの考えの違いを尊重しながら、解決策を模索していきましよう。まずは言葉を交わすこと、そこから始まります。冬休みには普段会えない人と会ったり、普段できない体験をしたりする機会があるかもしれません。その中で対話や体験を通じて少し成長した皆さんと、また来年会えることを楽しみにしています。また、自然災害など思わぬ出来事に遭遇し、危険な目に合わないとも限りません。そんな時はパニックにならず冷静に自分や大事な人の命を守る行動をとって下さい。皆さんどうかお元気で。そして素晴らしい冬休みを過ごしてください。

何を信じる？①

十二月一日、アスファルトの道を十日振りに見て、「ああ生き延びた！」と心から実感しました。ケアンズから往復二キロのケープヨークへの旅から帰ってきた日です。

旅人の間で半島のトップから見る海がやばいくらいに美しいという噂が流れており、聞いた時からオーストラリア最北端の岬の先端に立ち、そこからきれいな海を見るぞ！と心に決めていました。

その少し前に世界最大の砂の島、フレーザー島で悪戦苦闘しながらバイクを走らせる経験をして、バイクの運転に少しだけ自信をもってケアンズからのプランを練りました。片道千キロ、佐賀から東京までとほぼ同じ距離です。一日で走る距離を二五〇キロに決めて一週間分の食料と水、満タンのガソリンが24リットル、予備のガソリンタンクに10リットルのガソリンを積み、テントや寝袋、スペアパーツや工具の最小限の荷物だけ入れたバックパックを背負って、気温45度を超える中、ケアンズユースホステルを出発しました。他の道具は預かってもらいました。色々な人からたくさん情報

を仕入れましたが、中身がてんでバラバラなのです。一日にどれくらい進めるのか、路面の状況はどうなのかなど「楽勝！」という人もいれば、「一日百キロがやっとだよ」という人も。

どの人のどの情報を元に計画したかという点、「あれだけ砂の島を走ったから、きっと大丈夫だろう。片道四日で十分だ、運転がうまいからもしかしたら一週間で戻ってこれるかもな！」と割と甘く考えていた私は自分に都合の良い、耳当たりの良い話を中心に信じたのでした。

校長室より

慌ただしく十二月が過ぎ去っていきませんが、学校の日常には子どもたちとの何気ない会話があり、そこには笑顔があり、優しさがあリ、本当に人と人との関わりから元気がもらえるのだな、ということを実感しています。

いろいろなご心配やご迷惑をおかけすることが多い一年だったと思います。保護者の皆さんや地域の皆さん、そして何よりも子どもたちから支えられた一年でした。本当にありがとうございます。心の底から感謝しています。

私たち職員一同もこれからの進路選択や進級に向けて子どもたちと共に全力で走っていきます。これからどうぞよろしくお願いたします。